

平成 29 年度 練馬若年認知症サポートセンター 事業報告

はじめに

若年性認知症に特化した専門性の高いデイサービスを展開し、利用者に対しきめ細かい介護サービスを提供していくことで、在宅生活が維持できるよう支援した。

若年性認知症への理解と普及・啓発活動を行い、利用者及び家族が地域社会の中で安心した生活が出来るような環境の確立に努めた。

利用者へは、同じ目線での話しかけを心がけたケアを実践した。

重点事項

①若年性認知症専門のデイサービスの向上に努め **QUALITY** の高い事業展開を行った。

- ・ 同じ目線で話しかけ優しく触れるユマニチュードを取り入れたケアを行った。
- ・ 二つの動作を同時に行うデュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
- ・ 区と連携した環境ボランティア活動を行った。
- ・ 区と連携した安全・安心見回りボランティア活動を行った。

②利用者本人および家族の抱える問題を把握し、地域と連携をとりより良いサービスに努めた。

- ・ 地域の多職種ネットワーク会議定例会に出席し、当施設の日頃の取り組みや現状の諸問題について提議し、課題解決に向けての討論や若年性認知症についての情報発信・共有を行い、地域と連携をとりより良いサービスに繋がるよう努めた。

③若年性認知症への理解と普及・啓発に関係機関に働きかけ、取り組みを行った。

1 利用対象者

若年性認知症等 40 歳以上 65 歳未満で介護認定が要支援以上の方

2 事業内容

●通所介護・総合事業（一般デイ、若年性認知デイ）

- (1) 利用定員 1日 7名
- (2) 利用日 月～日曜日
- (3) 利用時間 午前 9：30 ～ 午後 5：00（送迎時間含まず）
- (4) 事業実績

平成29年度も、利用率の向上と利用者一人一人に合ったサービスを実施、関係機関及び家族との連携を強化することにより、サービスの質の向上を図ることを目標として1年間事業を行ってきた。

年間の稼働率は平均 65%（実績⑥）であった。前年度と比較して減少。

利用開始時より認知症の進行による住宅生活並びに介護が困難になった利用者の他施設への移行並びに病院入院（主に精神科）（実績④）が相次いだ。また家族介助者の体調不良による病院入院に伴い、利用者の他施設への移行や夜間の介護が困難となり、レスパイトケアの必要性も高まり、ショートステイの利用頻度が多くなった。

（５）サービス内容

①通所介護計画に基づくサービス提供

ケアプランに基づいた適正な通所介護計画を作成し、利用者及び家族の意向と状況把握に努め、全ての利用者がより良い在宅生活を継続できるよう支援を行った。

②健康管理

利用者の健康状態を観察・把握し、健康管理及び健康指導に努め、異常の早期発見、早期対応に努めた。緊急時は、家族及び主治医との連携による迅速かつ最善の対応に努めた。また、感染症予防のための適切な対応及び対策の徹底を図った。

③食事

管理栄養士と連携をとり、バランスの取れた昼食の提供をした。また、個々の利用者の状態及び嗜好を把握し、食事内容・形態に配慮した“食”に喜びを感じられるような食事の提供を行った。

ア．食事介助（食事状況の見守り）を行った。

イ．嚥下状態及び食事摂取量の観察を行った。

ウ．嚥下体操による嚥下訓練を行った。

エ．管理栄養士による栄養指導（栄養マネジメント）を行った。

④入浴

通所介護計画に沿った、毎日入浴サービスを提供するとともに環境整備にも努め、利用者に寄り添う個別対応にて提供した。

⑤送迎

利用者個人の心身状態及び地理的状況等を考慮した送迎車両・送迎ルートを設定し、無理のない送迎サービスを提供した。また、安全第一を念頭に置いた走行、及び車両の定期的な点検・整備を行い利用者の安全確保に細心の注意を払うとともに、車両内外の清掃を徹底し、利用者が快適に乗車できるよう努めた。

ア．乗車・下車時の介助を行った。

イ．乗車中の状態観察を行った。

ウ．迎え時の状態確認・送り時の状態報告を行った。

エ．シートベルト着用の確認を行った。

⑥介護サービス利用時の相談

利用者および家族の心配事や、悩みへのアドバイス等、各種相談には随時受け付け、連絡帳を活用したり、個別対応を心掛け、必要に応じて担

当ケアマネジャー・地域包括支援センター等と連絡調整を行い、利用者の在宅生活を支えるとともに、家族の介護負担の軽減を図った。

- ア. 生活相談等、各種相談は随時受け付け、対応した。
- イ. 在宅での介護方法についての相談・助言を行った。
- ウ. 家族会を企画し、開催した。(1回開催)
- エ. その他指定通所介護に係る必要な相談援助を行った。

⑦活動（レクリエーション等）プログラム

年間活動計画を立て、月ごとの誕生会や季節の行事に合わせたレクリエーション等、利用者のニーズに合わせた企画・提供を行った。

- ・ デュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
- ・ 区と連携した環境ボランティア活動（風景①）を行った。
- ・ 区と連携した安全・安心見回りボランティア活動(風景③)を行い、「防犯・防火パトロールフェア」のパネル展(風景④)に活動内容を発表した。
- ・ 関町南三丁目区民農園で農芸活動(風景②)を行った。
- ・ 毎週木曜日、配食ボランティア活動に参加し、地域の高齢者の見守りを行った。
- ・ 区民体育館にてスポーツを楽しんだ。

実施月	内容	日程	実施場所
4月	お花見散策会	上旬	近隣公園
	地域防災イベント	30日	しゃくじいの庭内
5月	お花見散策会	上旬	近隣公園
	GWお楽しみおやつ会	3.4.5日	サポートセンター内
6月	菖蒲まつり観賞会	11日	北山公園
	大正琴演奏会	22日	サポートセンター内
7月	七夕祭り	7日	サポートセンター内
	大正琴演奏会	31日	サポートセンター内
8月	納涼会	14・15日	サポートセンター内
	夏のお茶会	30日	サポートセンター内
9月	防災訓練	9日	避難経路
	ミニ運動会	23・30日	サポートセンター内
10月	オカリナ演奏会	24日	サポートセンター内
	干し柿作り	29日	しゃくじいの庭内
	江戸かつぼれ観賞会	30日	サポートセンター内
11月	紅葉見物会	上旬	近隣公園
	ボッチャ体験会	16日	関町福祉園内
	江戸かつぼれ観賞会	21日	みさよはうす土支田内
12月	クリスマスミニツリー作り	上旬	サポートセンター内
	年末大掃除	27日	サポートセンター内
1月	初詣神社めぐり	上旬	田無神社等
	大正琴演奏会	10日	サポートセンター内
2月	節分会	3日	サポートセンター内
	江戸かつぼれ観賞会	5日	サポートセンター内
	パトロールフェア	26日	練馬区役所アトリウム内
3月	防災訓練	13日	避難経路
	ホワイトデーおやつ会	16日	サポートセンター内
	地域防災イベント	31日	しゃくじいの庭内

⑧要介護認定の申請の手続きをアドバイス

初めての要介護認定の申請手順について相談にのり、アドバイスをを行った。また、本人・家族での「申請」が難しい場合、申請手続きの支援を行った。

⑨フォローアップ体制

ケアプランに沿ってデイサービスを利用されるようになった後も、ADL（日常生活動作）の向上を目指し、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、ケアマネージャーと連携のもと、ケアプラン作成の継続ができるようモニタリングを行った。

⑩自治体や各関係機関との連携

地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、福祉事務所、練馬区（まち美化推進係、安全安心係ほか）、地域自治会等との連携に努めた。

(6) 運営管理

①職員運営会議

月1回運営上の諸問題を検討及び事業・研修の計画を立てた。

②サービス調整会議

利用者のサービス等に係る諸問題を月4回検討した。

③事業プランをプロジェクトチームによる実現化

様々な事業プランはプロジェクトチーム化し、より精度の高い事業展開を行った。また、若年性認知症への理解と普及・啓発のサポート（支援）並びに中心的な存在（センター機能）としての役割をもって発信した。

◆ オール7プロジェクト（稼働率100%を目標とするチーム）

ケアマネージャー、家族会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所へ新規利用者の紹介を開拓し、利用へ繋げた。

◆ いまカラこれカラプロジェクト（若年認知症の相談・普及・啓発）

家族会を開催し、利用者の家族への交流、情報・意見交換等の場を提供し、利用者と家族の現状と将来を検討した。また意見等を集約し、地域の多職種ネットワーク会議定例会に出席し、当施設の日頃の取り組みや現状の諸問題について提議し、課題解決に向けての討論や若年性認知症についての情報発信・共有を行い、地域と連携をとり、より良いサービスに繋がるよう努め、若年性認知症への理解と普及・啓発を関係機関に働きかける取り組みを行った。

◆ 介護ロボットプロジェクト（助成申請・モニター施設申請）

介護ロボットを導入し、利用者の事故防止のための見守り並びにコミュニケーションツールとして役立てた。

・パルロ（人型見守りコミュニケーションロボット）

- ・アイボ（大型愛玩動物コミュニケーションロボット）
- ・パロ（アザラシ型愛玩動物ロボット）

◆ 地域密着配食プロジェクト（独居高齢者、見守り支援）

配食サービス（まごころ弁当）をデイサービス利用者、居宅介護支援事業所からの紹介による高齢者、訪問介護の介助食向けに販売し、当所利用者と共にご自宅に配達し、就労体験型支援として月間約 130 食提供した。

④防災管理

- ・ 利用者の安全確保のため職員に対し、消防計画の周知徹底に努めた。
- ・ 総合防災訓練を夏冬場に（年2回）実施した。

⑤保守点検、衛生管理

- ・ 設備保守点検を行った。〔毎日〕
- ・ 清掃を行った。（居室清掃、浴室清掃）〔毎日〕
- ・ 保健衛生を行った。（消毒）〔毎日〕

⑥苦情要望体制

担当者並びに常設窓口設置し、処理体制の整備を行い、真摯に受け止めサービス体制を整えた。

⑦研 修（職場内・社外研修）

名称	開催日	人数	備考
社会福祉主事資格 認定課程	4/1～ 3/31 1年	1名	日本社会福祉事業大学
介護支援専門員 試験対策講座	4/1～ 9/30 6ヵ月	1名	四谷学院

- ・ OJT
新任・現任の研修を行った。
- ・ OFF-JT
都・区・その他の機関の研修へ参加し、伝達研修にて全職員へ周知した。

⑧職員定期健康診断

- ・ 職員の健康を確保、維持するため、定期健康診断を年1回実施した。
- ・ 新型インフルエンザ対応のため、予防注射を実施した。

⑨ボランティア等の受入れ

- ・ コーディネーターに当たる担当職員を決めるなど、受け入れ体制の充実を図った。
- ・ 平成29年度にボランティア募集要項を作成し、関係団体、町内会、地域住民等にボランティアの受入れをPRした。
- ・ 社会福祉協議会加入の各種ボランティアグループをはじめ、個人のボランティアなどによる活動・慰問を受け入れた。

個人・グループ数	年間延人数	内容
8組	42人	江戸かっぼれ・大正琴 オカリナ・美化活動補助 散歩付き添い・レク補助

⑩実習生の受入れ

実習生の受け入れには、介護に係る人材育成という社会貢献と豊かな人間性を育むことに寄与し、積極的に実習生を受入れた。

項目	延人数
教員免許取得希望者介護等体験	10人

3 実績報告

(1) 利用者状況

① 平均年齢（平成30年3月31日現在）

性別	在籍者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	7	60.5			1	6	0
女性	1	59.0				1	0
全体	8	61.5			1	7	0

② 介護度（平成30年3月31日現在）

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援1	要支援2
男性	4	0	1	2	0		
女性	0	0	1	0	0		
全体	4	0	2	2	0	-	-

③ 入所状況（平成29年4月～平成30年3月末）要介護1から5の利用者

性別	入所人数	平均介護度	平均年齢	通所前環境			
				自宅	病院	就労	事業所他
男性	2	2.0	65.2	1	1	-	-
女性	0	-	-	-	-	-	-
全体	2	2.0	65.2	1	1	-	-

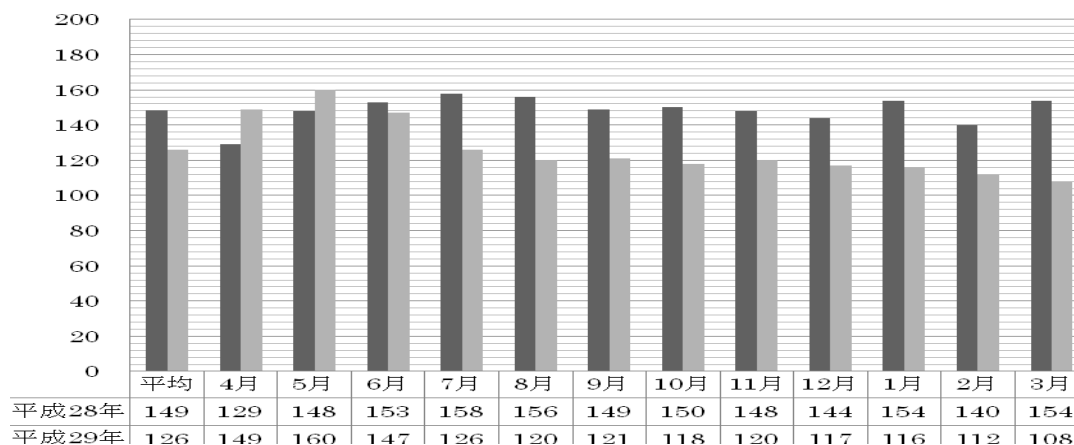
④ 退所状況（平成29年4月～平成30年3月末）要介護1から5の利用者

性別	退所人数	平均介護度	平均年齢	通所日数	退所理由			
					入院	他施設入所	他事業所	その他
男性	3	1.3	66.0	62	3	-		
女性	3	3.3	65.3	166	1	2		
全体	6	3.2	65.6	228	4	2		

⑤ 障害手帳の取得状況（平成30年3月31日現在）

性別	取得者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	3	59	-	-	1	2	-
女性	-	-	-	-	-	-	-
全体	3	57	-	-	1	2	-

⑥ 利用実績状況



⑦主な活動風景

●区と連携した環

①



●農芸活動：種ま

②



●区と連携した安全・安心見回りボランティア：安全・安心見守りパトロール

③



④



●レクリエーション行事：ボランティア団体による芸能鑑賞・体験

⑤「江戸かっぽれ」



⑥「大正琴」



●レクリエーション行事：ボランティア団体による芸能鑑賞・体験

⑦「オカリナ」



⑧「ボッチャ」

